

7/10
参院選

投票に行こう! 推薦候補全員の当選を!

ふれあい情報 第345号

2022年6月23日(木)

■発行 日本退職者連合
 ■発行人 野田那智子
 ■連絡先 〒101-0062
 東京都千代田区神田駿河台3-2-11

<TEL>03-5295-0507

<FAX> 03-5295-0541

<e-mail> ntr@sv.rengo-net.or.jp

第6回 幹事会を 開催しました 6/8 (水)

6月8日、退職者連合は幹事会を開催し、7月の参院選の推薦候補を確認するとともに、産別候補9人、選挙区候補46人の必勝を期して取り組むことを確認しました。また、7月に開催予定の第26回定期総会の持ち方、議案等について議論を行い、若干の補強意見を含めて内容を確認しました。

推薦候補 全員の必勝を! 人見会長あいさつ



6月18日

日に国会が閉会します。経済安全保障法が可決

されましたが、今後の運用については注視していく必要があります。困難な問題を抱える女性の支援法も、議員立法で通りました。女性に対する支援策が、国や都道府県に課せられます。子ども家庭庁も今週中くらいに決まると思います。かなり問題のある法案ですので、これも注視していく必要があります。

参院選は6月22日公示、

7月10日投票です。連合は

組織内候補9人、地方の候補46人の推薦を決定しています。私たちもこれらの候補の必勝に向けて戦っていく必要があります。

今の状況は、自民党が優位に選挙戦を進めています。このままいくと非常に厳しい結果が予想されます。少子高齢化が進む中でどういう国作りをしていくのかというように、この先の社会のあり方が見えるような選挙戦をやっていくべきだと思います。

7月14日に退職者連合は定期総会を行います。その時点では選挙結果も明らかになっていません。それを踏まえ、退職者連合の方向を議論していきたいと思えます。

ブロックからの報告

北海道ブロック

参院選の勝利に向けて取り組んでいます。また、高校生平和大使を3人選定しました。久しぶりに高齢者集会を実施しますが、「高齢者集会」というネーミングについて議論が出ています。

関東ブロック

この間活動を止めざるを得ませんでした。ようやく報告が出てくるようになりました。三役会、幹事会、学習会なども対面でできるようになってきています。東京では和光大の竹信さんと呼んで講演会をやりました。

北陸ブロック

グラントゴルフなどを開催しています。選挙対応も始めているが、感覚的にはまだ力が足りない感じですが、秋には学習会を計画したいと思っています。

四国ブロック

ここに来て、幹事会、グラントゴルフなど実施できています。香川では参院選の候補の一本化を目指してきましたが、残念ながら立憲、国民それぞれから立候補することになりました。

九州ブロック

福岡では、高齢者集会と併せて参院選の決起集会をしました。7月には野田事務局長を招いてブロックでジエンダー平等学習会を開催する予定です。



幹事の皆さん (連合会館201会議室)

立憲民主党

**自治体議員ネットワークと
意見交換を行いました**

5月26日(木)、退職者連合は立憲民主党「自治体議員ネットワーク」の三役と意見交換を行いました。このネットワークには、立憲民主党のすべての自治体議員が所属しています。立憲からは渡辺創自治体議員局長(衆院議員)、遊佐美由紀宮城県議員、松井正一栃木県議員、川名ゆうじ武蔵野市議員が、退連からは北村副会長、本村常任幹事ほか事務局が参加しました。



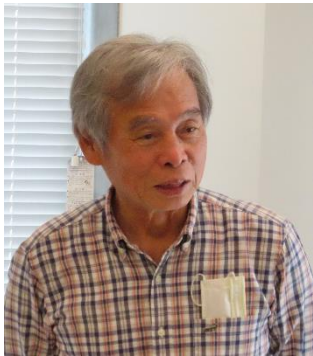
右から渡辺衆院議員、あいさつする遊佐県議、川名市議、松井県議
左側は北村副会長、本村常任幹事ほか退連事務局

意見交換では、今後各地域で草の根の交流・運動を進めること、これを機会に、縦系横系の連携を密にしていこうことなどが議論されました。

**軍労働者の解雇と
全軍労、解雇撤回の闘い**

復帰運動への当てつけのような「軍雇用員大量解雇問題」について書いておきたい。県民から土地を強奪して築いた米軍基地が閉鎖・撤去されるのであれば、それに伴う解雇は甘んじて受けよう。しかし復帰後の今日も基地は存在し、それどころか機能強化されています。支援した一人として、解雇撤回闘争は正しかったと思います。

米軍基地内の労働者は一般的に軍作業員と呼ばれ、ひところは教員を辞めて米軍基地へ転職していくという時代もありました。米軍の布令が沖縄の労働運動を規制する中、基地内の厳しい労働環境を克服して軍労働者が団結権を強化し、労働組合を生み出していったことには敬服するばかりです。しかし



順風満帆ではありませんでした。

68年11月、嘉手納からベトナム空爆に向かう爆弾満載のB52が離陸に失敗し、大爆発を起こす事故がありました。これを受け、B52撤去、基地撤去、ベトナム反戦運動が取り組まれ、復帰運動も高まりました。一方同時期に、アメリカは経済の落ち込みと相まって、基地の維持・強化のための軍事予算確保

復帰50年を祝えるのか (3)

沖縄県退職者連合会長 波平 剛

1月に初のストライキ(第1波48時間、第2波120時間)を決行。県労協傘下の労働組合や労組に移行する前の教職員会も支援動員でピケ現場に駆け付け、共に戦い抜きました。

米軍の雇用形態が、陸・海・空・マリンの4軍ごとに違っていることが団体交渉を複雑にさせていましたが、全軍労の団結はゆるぎないものでした。その後も数度にわたる48時間ストやハチマキ闘

に困難を来していたと思います。

69年11月の佐藤・ニクソン会談で沖縄の72年返還が合意されるや否や、翌12月に、米軍は基地労働者2400人の整理を発表したのです。解雇通告を受けた労働者の中には、日ごろから米軍に協力的だと表彰された者も含まれており、まさに無差別解雇攻撃でした。

これを受け、全軍労(全沖縄軍労働組合連合会)は翌年

争などを背景に団体交渉を行い、県労協や沖教組など組合による支援も継続していました。

**全軍労の闘いは、
復帰後も継続された**

この、全軍労の解雇撤回闘争は、米兵の交通事故が無罪放免され、婦女暴行事件の米兵が基地に囲い込まれ、これに対する民衆の怒りが爆発した、いわゆるコザ騒動(70年)とも同じ時期です。

全面的な解決は難しかったものの、全軍労の労働条件改善・雇用保障闘争は、復帰後も続き、自ら雇用を生み出す取り組みとして組合員による「ひまわりタクシー」を創設しています。また、軍労働者の仲間を国会議員にまで押し立てました。このような取り組みは、敗北続きの労働運動の中に灯った希望の光と言えないでしょうか。さらに、今日、全軍労は全駐労へ移行し、連合の一翼を担っています。これは、退職者としても誇るべきものです。

様々なことを乗り越えて来た復帰50年を思い、つくま書かせていただきました。二度とあつてはならない、しかも沖縄返還の密約など、どうすることも出来なかった時代を生きたことを、様々な資料を探りながら書かせていただいたことに感謝申し上げます。

参院選、猛暑とともに乗り越えましょう。ありがとうございます。ございました。(了)

復帰50周年を機に波平会長に寄稿をお願いしました。